

平成16年度第1回産業衛生技術部会企画委員会議事録

日 時： 平成16年6月12日（土） 17時から19時

場 所： 東京厚生年金会館ウエルシティ東京 B1F レストラン・アモーレ内 個室シトラス

出席（11名）：田中勇武（産業医科大）中明賢二（麻布大）加藤隆康（トヨタ自動車）原邦夫（労研）野原誠一郎（化繊協会）神山宣彦（産医研）落合孝則（富士通）山野優子（昭和大）伊藤昭好（労研・関東地方会担当）田中茂（十文字学園女子大）村田克（労研、書記）、（欠席：名古屋俊士（早稲田大）今井常彦（東邦大））

議題および報告・議事（○印：当日の主な議論や決定事項）：

I 産業衛生技術部会大会の開催（報告：田中茂企画委員会委員長）

1) 第10回産業衛生技術部会大会の開催（部会実行委員長：河合俊夫・中災防大阪労働総合センター）

日時：2004.10.27（水） 10:00～16:30 （懇親会 16:30～18:00）

場所：インテックス大坂 6号館F会議室

〒559-0034 大阪市住之江区南港北1-5-102 TEL 06-6612-8888

運営：近畿地方会技術部会幹事

運営代表：河合俊夫（中災防大阪労働衛生総合センター）

内容

1. 特別講演（10:00～12:00）

活性化する東大阪 山本 雄才（山本光学株式会社 代表取締役・専務）

駅伝ランナーを育てる（健康指導を含む）

渡辺 公二（兵庫県立西脇工業高等学校 陸上競技部監督）

2. シンポジウム（13:00～16:30）

『環境改善に向けて企業の担当者をその気にさせるポイント』

コンサルタントの立場から 黒木 孝一（黒木労働衛生コンサルタント）

産業医の立場から 宇土 博（日新製鋼呉製鉄所）

作業環境測定機関の立場から 城山 康（松下産業衛生科学センター）

企業労働衛生担当者の立場から 生田 善太郎（財団法人和歌山健康センター）

○会場について：緑十字展会場（2号館）とは同じ敷地内の別の建物であり、その点について地図の掲示など広報に配慮する必要がある。

○広報について：産衛誌7月号および中災防の雑誌への掲載は手配済。部会メーリングリスト、ホームページ、各地方会主催のニューズレター類、研究会等への広報→第一報として早急に掲載、各地方会幹事へ連絡（担当：広報委員会）。

2) 第11回産業衛生技術部会大会の開催（部会実行委員長：伊藤昭好・労研・関東地方会担当）

2005年4月の第78回日本産業衛生学会会期中に開催予定。

テーマ：「組織の社会的責任と産業衛生技術者の倫理」座長：伊藤委員長

演題案：

社会的責任と技術者倫理

企業の社会的責任の実践例

産業保健専門職の倫理指針

大学の社会的責任

労働衛生機関の社会的責任

○演者について：学会の倫理審査委員会から出てもらったらどうか。企業からは安全衛生部門よりも統括部門からのほうがふさわしいのではないかと。→今後検討する。

3) 第12回産業衛生技術部会大会の開催（部会実行委員長：田口豊郁・川崎医療福祉大）

2005年秋、広島（緑十字展会場）にて開催予定。企画未定。

○ 第13回大会は、2006年春、産衛学会会期中に東北地方にて開催予定（部会実行委員長：板井一好・岩手医科大）。

○ 第14回大会（2006年秋・緑十字展会場）は新潟の予定。

II 委員会活動

1) 教育研修委員会（報告：原邦夫委員長）（資料1）

○内容・講師は、テキスト（資料3）の1から順次実施する。

○手帳ではなく、受講証明書等を研修会で発行するとともに、参加者名簿も作成し管理する。

○新たに「資格制度検討委員会」（委員長：加藤副部長）を設置し、IH 資格制度を検討する。

○制度が施行された場合は、研修会参加記録を資格取得のために活かす。

2) 広報委員会（報告：落合孝則委員長）

衛生管理者など、部会員以外も配布対象としたメールマガジンを近日中に発行予定している。内容は他の学会も含めた講演会や研究会の開催情報など、衛生管理者のニーズにも沿ったものとする。当面は広報委員会による執筆となるが、他の先生方による執筆も御願いしていく。

○学会でも公益法人として学会員以外への情報提供など公益性を発揮するよう要請されており、そういう観点からもこのようなメールマガジンは時宜にかなっているだろう。

3) 企業安全衛生グループとの交流委員会（報告：野原誠一郎委員長）

全国衛生管理者協議会の今年度事業計画の中で、技術部会の協力の下に講演会などへの講師紹介等の事業を行うことが正式に承認された。またこの講演会の際に、衛生管理者との情報交換の場を必ず設けることも認められた。広報委員会で計画しているメールマガジンの会員勧誘などにも活用できる。

4) 表彰委員会（報告：田中勇武委員長）（資料2）

○細則案を部会メールリストおよびホームページへ掲載（担当：広報委員会）し、8月一杯を期限に部会員からの意見を求める。

5) 編集委員会（報告：神山宣彦委員長）（資料3）

○出版費用を学術振興会からの補助費に頼ると、来年春の学会（東京）時の研修会に間に合わない。→版権も含めて中災防からの出版を打診する。

6) 許容濃度活用委員会（報告：村田克）

委員会での検討事項は、学会内の作業環境測定検討委員会で昨年度から引き続き検討されているため、当面は委員会としての活動は予定していない。作業環境測定検討委員会からの要請で技術部会としての検討が必要になった時点で活動を再開する。

7) 3部会コラボレーティング委員会（報告：落合孝則委員長）（資料4）

本年度も資料の通りに合同セミナーを予定している。昨年度のセミナーは参加者に好評であった。

○リレーワークショップについて：10/29、16時～19時に産業医・産業看護協議会において「働く人の健康(元気)を生み出す組織(職場)づくりー職場におけるヘルスプロモーション」が開催される。この中で技術部会も協力する。

III その他

1) 会員名簿の管理を事務局（産医大）へ移した件（報告：村田）

新年度からの事務局が産医大に設置されたことに伴い、技術部会会員の名簿管理を新事務局へ移管した。ただし当面は新規会員への連絡などは引き続き村田が担当し、名簿内容も共有する。新規入会申し込みは事務局へ連絡していただきたい。

2) 部会大会、委員会、地方会の各担当は、前年度を参考に必要経費を事務局へ請求してほしい旨、部会長より要請がなされた。

○ 今回の委員会での議論も含めて技術部会の議事内容は公開を基本とし、一定の手続きを踏んだ上で、議事概要を部会メールリストへ配信する。

○ 第2回委員会は9月18日（土）17時から今回と同じ場所で開催する。

○ 第3回委員会は12月11日（土）17時から今回と同じ場所で開催する。

以上

<当日配付資料>

(資料1 教育研修委員会)

1. 教育研修委員会の2004年度の目標

ホームページに掲載している(仮称)専門産業衛生技術者の認定カリキュラムなどを題材に議論を進め、以下の3点を重点目標とした。

- (1) IH養成を目指した研修制度確立に向けてかなり具体的な準備研修会を開く。
- (2) 研修手帳を配布する。
- (3) 編集委員会と合同して『テキスト』を作成する。

2. 年4回の研修会

産業衛生学雑誌に連載した『産業衛生技術講座』を補強し、テキストに追加していくべき項目を重点に、(仮称)専門産業衛生技術者の認定カリキュラムが想定している『講座』に取り上げられていない項目で、年4回開催することとした。ただし、いずれも今後講師等の了解を得る必要がある。

- (1)第1回(6月):フィジカル・メンタル面の職場復帰支援(堀江先生(産医大))
- (2)第2回(9月):労災補償(厚労省補償課)
- (3)第3回(11月):労働衛生工学会時(東京):システム監査(白崎氏(中災防))
- (4)第4回(2月):コミュニケーション能力とは

3. 2005年度産衛東京大会での研修会

産衛初日(4/20)の技術部会独自の1日研修会として、以下のところまでおおよそ決定した。今後、より具体的に人選などを折をみて決めていくこととなった。

- ・テーマ:(仮)産業衛生技術で現場でできること
 - ・日時:産衛の初日の総会前まで(10:00~15:00)
 - ・講師:講座『産業衛生技術』の執筆者から3ないしは4名
 - (1)化学物質のリスクマネジメント:城内博先生(日大)
 - (2)物理要因のリスクマネジメント:
 - (3)作業関連疾患のリスクマネジメント:
 - (4)メンタルヘルス・職場組織のリスクマネジメント:
- 座長:田中勇武先生(技術部会長)
司会:田中茂先生(技術部会企画委員長)

4. 手帳

(1)予算規模と(2)「事務運営組織」について了解後に、本格稼働する。

4.1 手帳見積もり:335,580円(手帳32p 300冊)

4.2 事務運営組織:月1回程度の整理と、5年に1度の登録等の整理。

(資料2 表彰委員会)

日本産業衛生学会 産業衛生技術部会奨励賞 細則案

(目的)

第1条 この細則は日本産業衛生学会産業衛生技術部会規定第3条に基づき、日本産業衛生学会産業衛生技術部会奨励賞(以下、奨励賞と言う)を設ける。これは、産業衛生技術の分野における研究または実践活動において、著しい業績を挙げた産業衛生技術部会員を表彰することにより、産業衛生技術の振興と発展を図ることを目的とする。

(受賞者)

第2条 奨励賞の受賞者は、産業衛生技術部会員であることとする。受賞者数は原則として毎年2名とし、企業から1名、大学または研究機関から1名とする。

(選考委員会)

第3条 奨励賞の選考委員会は、産業衛生技術部会幹事会が選任する産業衛生技術部会会員数名をもって構成するものとする。

- ① 前項の委員の任期は、産業衛生技術部会幹事の任期機関と連動するものとし、再選を妨げない。
- ② 選考委員長は、産業衛生技術部会長に委嘱するものとする。
- ③ 選考委員がやむを得ず選考委員会に欠席する場合は、代理を立てることができる。ただし、選考委員長の了承を得るものとする。

(表彰)

第4条 奨励賞の表彰は、産業衛生技術部会大会開催期間中に行い、受賞者に表彰状と副賞を授与する。

① 選考委員長は、表彰に際して選考の経過を報告するものとする。

(付則)

1. この細則は、平成〇年〇月〇日より施行する。
2. 奨励賞の財源は、産業衛生技術部会初代部会長の中明賢二氏のご厚志によるものであり、中明氏の功績をたたえて奨励賞を通称「中明賞」とする。

以上

(資料3 編集委員会)

専門産業衛生技術者用テキスト作成に向けて(産衛誌上:42名、約100頁分)

1. テキストの位置づけ

- (1) 広く労働衛生技術をカバーする。
- (2) 技術部会の基本テキストとする。
- (3) 研修に使う。

2. 著作権

著作権は、技術部会が持つ。

3. 出版方法

学術振興会の出版広報補助費に申請する。ただしこの場合交付が6月以降になる。編集は出版社に頼む。

4. 形式

- (1) A4またはB5版、200前後、価格は2千円台。
- (2) 原稿はイエローページを基本とし、著者による書き直しも可能とする。図表等の追加は、積極的に勧誘し、1課題最大4頁程度までとする。
- (3) タイトルは「産業衛生技術入門」とし、目次案は以下の通り。

5. 今後の予定

- (1) 学術振興会への申請
- (2) 原稿修正は秋(11月末)頃まで
- (3) 2005年3月末出版
- (4) 2005産衛学会の研修会に使う

「産業衛生技術入門」目次案

産業衛生技術入門

1. 産業衛生技術とは

- ・産業衛生技術者に課せられた役割
- ・産業衛生技術の将来展望

中明賢二(麻布大)

田中勇武(産医大)

2. 人間工学入門

岸田孝弥(高崎経済大)

3. 産業心理学入門

北島茂樹(産医大)

4. 産業疲労研究入門

近藤雄二(天理大)

5. メンタルヘルス入門

長尾まき子, 森本兼囊(大阪大)

6. インダストリアルハイジニスト

保利 一(産医大)

7. 衛生管理者の役割

落合孝則(富士通)

8. エルゴノミスト

三澤 哲夫(千葉工大)

労働衛生管理手法

11. 作業環境評価

小西淑人(作業環境測定協会)

12. 個人ばく露評価

熊谷信二(大阪公衆衛生研)

13. 個人ばく露評価(パッシブサンプラー)

菅野誠一郎(産医研)

14. バイオロジカルモニタリング

河合俊夫(大阪労衛総合センター)

15. リスクアセスメントとリスクマネジメント

原 邦夫(労研)

16. 労働安全衛生マネジメントシステム

伊藤昭好(労研)

17. 作業場の安全管理

近藤充輔(産医大)

18. 安全衛生行政（法規） 早木武夫（厚生労働省環境改善室）
 19. 職場巡視・リスクコミュニケーション 堀江正知（産医大）

化学物質リスク評価

21. 化学物質管理と安全衛生(IPCS, MSDS, PRTR) 城内 博（日大）
 22. 中毒試験法入門 市原 学、那須民江（名古屋大）
 23. 産業中毒とバイオマーカー 山野優子（東京女子医大）
 24. 許容濃度とユニットリスク 大前和幸（慶応大）
 25. 新規化学物質・バイオハザード対策 東 敏昭（産医大）
 26. 産業衛生分野における動物実験法入門 今井常彦（東邦大）

作業環境の制御と改善技術

31. 作業環境と排気設備の実際 成清雄一（東陶機器）
 32. 労働衛生保護具
 （防毒マスク、化学防護手袋、化学防護服） 田中 茂（十文字学園女子大）
 33. 労働衛生保護具（粉じん） 明星敏彦（産医研）
 34. 作業改善手法 加藤隆康（トヨタ）
 35. 作業環境改善手法（粉じん） 名古屋俊士大（早大）
 36. 作業環境改善手法（有機・ガス） 田村三樹夫（上越環境センター）

産業衛生技術各論

41. 女性が元気で働き続けられる職場づくり
 —職場・生活の全体を見る視点— 大神あゆみ（読売新聞社）
 42. ハンディキャップのある作業者の快適職場 田口郁郎（川崎医療大）
 43. 高年齢者労働者のための快適職場 神代雅晴（産医大）
 44. 夜勤交代制 酒井一博（労研）
 45. VDT 作業の安全衛生 斎藤 進（産医研）
 46. 光・磁場の衛生管理 奥野 勉（産医研）
 47. 騒音と対策 高橋幸雄（産医研）
 48. 温熱条件と安全衛生（熱中症） 澤田 晋一（産医研）
 49. 振動障害と工学的対策 西山勝夫（滋賀医大）
 50. 腰痛・頸肩腕症とその対策 甲田茂樹（高知医療看護短大）
 51. 今後の石綿ばく露対策 神山宣彦（産医研）
 52. 職場の喫煙対策 大和 浩（産医大）

（資料4 3部会コラボレーティング委員会）

2004 日本産業衛生学会 産業医部会・産業衛生技術部会合同セミナーの御案内 第1報

産業医部会と産業衛生技術部会の第2回合同セミナーを2004年11月26日（金）～27日（土）にかけて行います。この合同セミナーの目的は、産業医と産業衛生技術者が合同して、職場巡視を行い、それぞれの専門の立場から、職場の改善すべき問題点や今後の産業保健活動に生かす良い事例を取材し、参加型のグループ討議を行ってまとめ、全体で発表・討議することによって、人間工学や衛生工学を中心とした職場改善・作業管理のための実践的なスキルの向上を図ることにあります。

今回の合同セミナーでは、産業医、人間工学専門家、衛生工学専門家、作業環境測定士、労働衛生コンサルタントなど異なる職種の人が集まり、小グループに分かれ、一つの職場を巡って、多様な視点から具体的な職場改善を検討すること大きな意義があります。日常の産業保健活動に必要な職場改善のスキル向上の絶好の機会になると考えています。

セミナー参加希望者は、会場費・宿泊費を郵便振込みにて振込み、払込票兼受領書のコピーを添付のうえ、参加申し込み用紙を FAX 或いは、郵送下さい。尚、会場への交通などの詳細は、参加希望の方に対して第2報にて行います。

申し込み期限： 準備の都合上、2004年11月1日（月）までに申し込みください。

2004年4月21日 日本産業衛生学会、産業医部会・産業衛生技術部会

■ 日本産業衛生学会 産業医部会・産業衛生技術部会合同セミナーの実施要領 ■

□日時：2004年11月26日（金）13時～27日（土）12時

□対象：日本産業衛生学会の産業医（40名）・技術部会員（10名） 計50名

班構成：5班で1班10名

□場所：日新製鋼（株）呉製鉄所

〒737-8520 広島県呉市昭和町11-1

TEL：0823-25-8220（日新製鋼 診療所）

□方法：

・11月26日（午後） 事業場の職場巡視

事業場を訪問し、職場を見学、改善すべき問題点や今後の産業医活動に取り入れたい良い事例を取材する。夕方にグループ討議をしてまとめる。

13:00 JR呉線・呉駅集合、日新製鋼（株）呉製鉄所へ移動

13:30～ 会議室：日新製鋼の概要（日新製鋼スタッフ・宇土）、
チェックリストの説明（原、落合）

14:20～ 移動

14:40～ チェックリストを使って職場の巡視（落合、宇土、田口）

16:40～ 移動

17:00～ 会議室 質疑・応答

17:30～ 移動 → 宿泊地（日新製鋼 若葉クラブ）

18:00～ 研修・宿泊地にて夕食

19:00～ 職場見学結果をpptに取り込み発表準備

21:30～ 懇親会

・27日（午前）人間工学の視点からの作業管理

パワーポイントを使用してプレゼンし、全体でディスカッションする。

9:00～ まとめ（日新製鋼 若葉クラブ：研修室）

9:30～ 発表（10分）・質疑（5分）（15分×5班）

11:20～ 講評（広瀬、中明）

11:30～ 日新製鋼の産業保健対策の歴史（宇土）

12:00 解散

□その他：チェックリストの使用

職場見学の支援ツールとして10項目程度の簡単なリストを作成・使用する。

□宿泊場所：日新製鋼 若葉クラブ

□担当

産業医部会：宇土博（日新製鋼・広島文教女子大学）、広瀬俊雄（仙台錦町診療所・産業医学センター）、甲田茂樹（高知医大）、伊藤正人（松下・高槻健康管理室）、杉村久理（株式会社アイ・ティ・フロンティア 産業医）

技術部会：中明賢二（麻布大）、落合孝則（富士通健康管理センター）、田口豊郁（川崎医療福祉大）、原邦夫（労働科学研究所）、村田克（労働科学研究所）

産業医認定講習会の申し込み

● 事業場の巡視（実地研修：日医認定産業医研修 基礎実地2単位予定）

□事業場 日新製鋼（株）呉製鉄所

□日時 11月26日 14:40～17時

□講師 仙台錦町診療所・産業医学センター（産業医部会副会長）広瀬俊雄所長

日新製鋼産業医・広島文教女子大 宇土博 教授

高知医大 甲田茂樹 教授

富士通健康管理センター 落合孝則 主管研究員、他

□方法 事業場を訪問し、職場を見学、改善すべき問題点や今後の産業医活動に取り入れたい良い事例を取材する。夕方にグループ討議をしてまとめる。

13:20～ 会議室：概要説明・チェックリストの説明

14:40～ チェックリストを使って職場の巡視

17:00～ 質疑・応答

19:00～ グループ討議（日新製鋼 若葉クラブ）、発表をパワーポイントにまとめる。

●報告会（座学：日医認定産業医研修 基礎後期3単位予定）

人間工学の視点からの作業管理

□場 所 日新製鋼 若葉クラブ

□日 時 11月27日 午前9時～12時

□講 師 高知医大 甲田茂樹 教授

仙台錦町診療所・産業医学センター（産業医部会副会長）広瀬俊雄所長

麻布大学 中明賢二 教授

日新製鋼産業医・広島文教女子大学 宇土博 教授

川崎医療福祉大学 田口豊郁 教授

□方 法 夕方の5班のグループ討議をパワーポイントで報告する。

講師による講評を行う。